

常滑の艇庫移転会議

平成10年5月1日

鬼崎ヨットハーバーに艇庫を所有する各大学、企業の意見は以下の通りである。

- ・三菱名古屋ヨット部 高須さん：当クラブではディンギーとクルーザーの両方活動している。ディンギーは人数不足で停滞している。ここであえてディンギーだけを蒲郡に移すと活動が難しくなるので私たちの企業は鬼崎に残る。新しい用地は申し込んであるが、会社の予算はとれていない。
- ・名古屋 YMCA 山本さん：常滑の新しい用地は申請している、また土地を借りる予定。私たちは企業内のクラブではなく、ヨットをやりたい人たちが集まり会費を集めて運営している。今までに移転のために少しずつ資金を集めてきてはいるが予算が付かない。しかしどうしてもなければ会費でなんとかする予定。またクルーザーとディンギーの両方で活動しているので、別々になるとやりずらいために鬼崎に残る。
- ・レーザー知多フリースト 高嶋さん：私たちは、今年加入を認められた新しい団体である。あくまでも鬼崎で活動するということで加入を済ましたので蒲郡への移転は全く考えていない。ディンギーだけではあるが、新しい土地もスペースもいただいたので鬼崎に残る。また、私たちは個人が集まった団体で社会的な名称は持っていないが全国に78あるレーザーのフリーストクラブとしては登録してある。また愛知県にはもう一つ蒲郡にレーザーのフリーストがあるため、知多フリーストはあくまでも鬼崎で活動する。今はトヨタの艇庫を借りているが新しい土地も市に言って確保した。トヨタはもう鬼崎を撤退する。
- ・名古屋大学 学務課 加藤さん

林先生の質問：移転に関する資金が少しでも出れば越したことはないのでは？

加藤さんの返答：今まで実績も全くないので常滑市の言うとおりにする。

これ以上要求するつもりはない。

- ・名古屋学院大学 学生課 山本さん：名古屋学院大学はもう常滑からひきあげる。99年までに土地を明け渡すと言うことを常滑市に伝えてある。鬼崎に残ることはないがそのあとどうするのかはまだ決めていない。ヨット部の存続についての問題があったが、続きそうなので、そうなれば蒲郡と思っていた。是非この話に乗りたい。すでに蒲郡もみてきて予算などの話も聞いた。しかし土地はないとのことである。

林先生：海陽の運営会社（3セク）に聞いても返答能力がない。実際施設の稼働率がわるい。レースを行うときにはあいているから都合がいいが、大赤字になっているためどうやってこの稼働率を上げるかは、県も考えているのではないかと。

- ・常滑市体協ヨット部 OYC 杉江さん：今は、企業が2、3艇入っているだけである。昔は、常滑高校ヨット部が使っていたが活動が終了した。しかし常滑市民の便宜を図りたいので残る。またクルーザーも活動している。8月9日には、今年から伊勢湾マリンカップという新しいレースも始める。そういった活動の拠点として鬼崎の新しいハーバ

ーは確保する。もともとディンギーのクラブではあったが、クルーザーに乗り換える人が多くクルーザーがほとんどになった。

林先生：一般市民が利用するために船を所有しているのか？

返答：船は所有していない。それぞれ個人や実業団が船を管理している。常滑市民を対象とした艇庫なので、会費も取っていない市からお金が出ている。

- ・愛知工業大学 学生課 河野さん：鬼崎にたてるつもりでいたが、特に動いていない。とても興味深い学生のスポーツ振興なのでなによりも学生の意志が重要。無責任かもしれないが、他が移れば移るし、残れば残ると思う。とにかく急な話なので何ともいえない。残念なことに1度愛工大から蒲郡を考えてほしいと学連の方に伝えたが、その時には何もなかった。その時点で話が出ていればと残念に思う。
- ・南山大学 学生課 高田さん：海陽と鬼崎とを比べると、海陽は通うのに時間がかかるために去年の学生は鬼崎でもという意見であった。新しい土地も申し込みだけはしてある。予算化はまだしていない。今年度予算化したい。しかし海陽の方がレースなどで都合がいいのかなどを確認しつつ考えたい。今のところ鬼崎かとは思っているが鬼崎の土地代も高くなるので何とか安くなればと思っている。また空港やのり網のこともある。とにかく学生の課外活動の艇庫なので学生の意見を尊重したい。たてる期限があるのでそれまでに話があれば考える。今の艇庫を撤去するのが13年の1月。そして新しい土地は11年の4月から借料はとられる。
- ・名古屋大学 学務部 中村さん：大学としての考えは、あくまでも学生の課外活動を重視。その活動を停止させるようなことは必ずさけたい。海陽のことも頭に入れながら考えている。海陽側としてみては、野積みとして使うのは考えているが、そこに建物を建ててといった管理は全く考えていない。海陽に建てる考えはないとして、鬼崎での新しい土地を常滑市に申し込んだ。学務部としては、常滑の新しい土地に今までと同じだけの建物をつくり最善の努力をしたい。
- ・愛知学院大学 管財課 青山さん：10年度に新艇庫の予算はとってある。予算はとってあるが例がないためにやるかどうかまだ考えている。基本的には鬼崎に建てる予定だが、学生の意志重視。ここでの話し合いで判断材料を得たい。
- ・名古屋工業大学は新しい土地に申し込んでいるために変更しにくい理由で欠席。

以上をまとめると予算化を進めているのは、
愛知学院大、南山大、名古屋大、名古屋工業大
まだ申し込みだけで予算化はまだというのは
愛知工業大

林先生：常滑の空港は、日本全体で考えても極めて大規模な工事である。大学以外は、クルーザーに動いているために海域が違うからいいが、大学はこういった提案があれば考え直すといった様子。すべての団体が移る、または残るというのではないので、良いバランスであると思う。

また各大学とも学生の意志を重視すると言っていたので各大学、学生の意見は次の通りである。

- ・名城大学 副将 小野：蒲郡に移転は学生としては賛成。実業団との接触、設備の問題が大きい。しかし監督の話によると学校の方がかなり動いているので常滑に建てるのではないか。
- ・名古屋学院 主将 増田：学生としては移転は賛成。練習におけるレベルと安全性。さらにうちの大学は鬼崎には艇庫はたたないしかし海陽なら建つかも说不定。
- ・名古屋大学 主将 塩月：学生は海陽に行きたい。冬の練習において名大だけになることがあったので安全面もとても大きい。
- ・愛知工業大学 学連 あゆかわさん：部員で相談したところ海陽に移りたい。またこの大学も今部員が少ないので、ハーバーがきれいだと活気が出て部員も増えるのではないか。
- ・南山大学 主将 増田：部員で相談したところ海陽に移りたい。レースにおける陸送の手間がなくなるのが大きい。ただ交通が不便になるために100%賛成とは言い切れない。
- ・また名工大は学務課が反対していて、学生が出席するのは検討しているということなので学生も出席していなかった。しかし、以前の話し合いでは学生の意志は、海陽に移転したい。

林先生：蒲郡に移転する場合に蒲郡市は協力してくれるらしいが、予算面もふまえて今年すぐというわけにはいかない。また移転する場合に各大学が単独でやるのか、合同でやるのか、もっと公的なところがやってくれるのか3パターンが考えられる。

名大、名工、愛学、南山は単独でという考え。

- ・愛工大 河野さん：どれでもいいがとりあえずどちらかを決めるべき。どのように建てるかは、次の問題。鬼崎か海陽かだけ早く決めたい。

以上から、企業の意志は決まっている。考えているのは、大学だけ。しかも大学と学生の考えがあいまい。もっと大学の足並みを揃えるべきである。また林先生は、中部学生ヨット連盟の会長である市川さんと話をする必要がある。そしてこの会議は、2週間ピッチくらいで話し合いたい。企業の方へは必要ならば案内を送って参加していただく。

次回は 5月15日(金) pm3:00~5:00 予定

最後に各団体からの質問は次の通りである。

- ・三菱名古屋ヨット部 高須さん：空港が出来ることによりその工事船の航路は完全に今の海域に入ってくるのか？

林先生：まだこれから決まること。しかし残って常滑で練習するにはその辺の情報を確保した方がいい。

- ・レーザー知多フリート 高嶋さん：空港建設にあたり漁業補償も大切な問題である。また新しいハーバーの利点も考えてほしい。スロープも広くなる。そういった情報も欲しい。

- ・愛工大 河野さん：一番心配なのは新しいハーバーの地盤の問題である。耐震性などといった問題はないのか？

林先生：これについては一度調べてみなければならない部分もある。

- ・愛工大学連 あゆかわさん：5月13日に常滑市土木課の人やヨットや漁協の会合がある。そこには学連の学生代表と市川さんが参加する。

- ・常滑市体協 ヨット部 杉江さん：前年度は13日行われた。今年度は4月8日に1度行った。いつも夜7:00から2時間ぐらい。利用法などを話し合う。今、会則を作ってそれにのってやってみようとしている。この会の会長は鬼崎漁港の組合長がつとめている。

今日の会議は以上で終了しました。

書記：名大ヨット部 3年 佐藤 正好 (林 良嗣 確認)

名大学務課は、蒲郡移転も検討し始めた。(林 良嗣)